



公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人うめらくは、共同でトークイベント「キタ再発見の会」「うめらく未来ミッション」を開催します。「キタ再発見の会」は、キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして開催しています。「うめらく未来ミッション」は、実際に地域で活動している方と、地域で活動をした人をつなぐ交流の場として定期開催しています。未来へのミッションを発見し、地域での活動を具体的に進めるきっかけとなりますよう、皆様に気軽に立ち寄りいただき、夜のひとときにごストークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

第19回キタ再発見の会×うめらく未来ミッション (vol.27)

□テーマ 『楽しくをカタチにする地域の場づくり・豊仁地域』
□コーディネーター：一般社団法人うめらく 代表 山田摩利子
□ゲストスピーカー：大阪市北区地域振興会 会長 兼
豊仁地域活動協議会・連合振興町会 会長
岩岸 敏雄 様
大阪市青少年指導委員連絡協議会 副会長 兼
北区青少年指導委員連絡協議会 会長
森田 謙 様 様
□日時 2022年9月13日(火) 19:00-20:00
□場所 都市活力研究所セミナールーム Zoom 併用
コロナ禍で地域活動の中止が相次ぐ中、花火大会、遠足、タイムカプセルイベントなど、青少年を対象としたコロナ禍でもできるイベントをたくさん打ち出す「豊仁地域」。何がそこまで大人を突き動かすのか?! 地域の魅力とともに、地域で動く人たちの想いにも迫ります。

山田氏：今日は豊仁地域ということで、岩岸さんと森田さんにお越しいただきました。

岩岸氏：現在大阪市北区地域振興会の会長と豊仁地域活動協議会の会長、ならびに豊仁地域連合振興町会の会長をやっております岩岸敏雄と申します。

森田氏：森田謙と申します。役職は豊仁地域の青少年指導委員の代表として北区の会長もさせていたでいております。それから大阪市の青少年指導委員連絡協議会の副会長をしております。

山田氏：よろしくお願ひします。お二方が地域に関わるキッカケが何かあったと思いますが、まず岩岸会長から教えていただけますか。

岩岸氏：そうですね。古い話をしますと、実は5歳の時に戦争が終わって疎開先から帰ってきましたが、焼けてしまって何にもなかったのです。そのときに集会所に来てもらえば、おにぎりとお茶がありますから集まってくださいという広報がありました。そういうことが心の根底にあって、そのうちに自分の子どもが学校に行きだすとPTAの関わりで青少年指導委員というのがあったので、それに入らせてもらいました。その時にクリスマス会がありましてね、その会場へ来る子どもの顔を見ると、目がそれだけ開くのかというぐらい開いていてですね(笑)。あの顔を見たら疲れも吹き飛ばすということで、それが大きなキッカケかなと思います。

山田氏：ありがとうございます。岩岸会長が疎開して豊仁にいられたというお話がありましたが、学校でいうと結構変遷があったんですね。豊崎本庄小学校の分校として小学校ができた。それで、豊崎第二尋常小学校の「豊」と、第二の「仁」で、「豊仁」ということでしょうか。

岩岸氏：学校の名前はそういうふうになりました。

山田氏：それが空襲にあって豊崎東小学校に統合されて、そして豊崎東小学校の分校として再校して、豊崎東から独立して開校したという変遷があったんですね。森田さんもなにか、地域活動に関わるようになったキッカケがあったのでしょうか。

森田氏：私の嫁が豊仁地域の出身で、私は違うところの出身なのです。それで、結婚して違うところに住んでいたのですが、こちらに嫁の父親もいるので引っ越しして行くことになりました。私が野球をやっていたので、地域の人たちがやっているソフトボールに参加しました。ソフトボールをやっている人たちが地域の活動をしているので、地域活動にも手伝いに来いということになって、最初はイヤイヤ行っていたのです。私には小さな子どもがいましたので、この子と遊びただけだったので。私の子どもが少しずつ大きくなっていくと、友達と遊んでいるほうが楽しい子にしているのに気づきました。それで私も友達も我が子と一緒に遊べるのは地域活動ではないかと思っただけです。つまり、子どもたち同士で遊んだり色々な体験をしたりする場所を作ったほうが、この子

のためになるし私も地域活動ができるので一石二鳥だし、自分も楽しい。それで、イヤイヤ行っていた地域活動に徐々にのめり込んでいくようになったのです。

山田氏：なるほど。“地域活動で一石二鳥”というのは良い言葉ですね。

森田氏：前向きでしょ(笑)。子育てとボランティアが別々だったものが、ある日突然つながったのです。

山田氏：仕事はつながってないのですか?

森田氏：まだまだですね(笑)。

山田氏：地域の会長さんというのは、地域で自営業をされている方が多いですが、豊仁地域はどうですか?

岩岸氏：歴代の会長さんは、個人で事業をされている方が多かったですね。会長になると、日々いろいろとやらなければならないことがあるので、サラリーマンの方がこの役職に就くというのは大変だと思います。サラリーマンの人になってもらうとちょっと広がるという点もありますけれども。

山田氏：お休みの日に行事をされることが多いじゃないですか。このイベントの時に入ってほしいという受け入れ方はされていないのですか?

岩岸氏：なかなか取っ掛かりが難しいのではないかと思います。さきほどの説明もありましたように、なにかキッカケをつくってあげたいですが。

山田氏：それでは今から、豊仁地域の数々の活動を写真でご紹介しますので、この中からなにかキッカケになってもらえたらいいなと思います。まず、2020年3月に豊仁小学校で開催された、「豊仁タイムカプセル」はどんな感じのイベントなのでしょう。これはコロナと書いていますけれども新しい企画ですか?

森田氏：そうですね。私はPTA会長でもありますが、突然訪れたコロナ禍で、子どもたちが普通にできていたことができなにかかわいそう。なぜタイムカプセルをしたかということ、今はすぐつらいけれども、10年後に“俺らの時なんか～、なんもでけへんかってんで”とかいうことを話している自分たちを想像して、10年後の自分に手紙を書こうということでやりました。ですからこれは日々を悲観するのではなく、未来に希望を持っている自分に対するお手紙を10年後の自分に残すということでやりました。

山田氏：このアイデアは誰が出されたのですか?

森田氏：青少年指導委員メンバーのひとりです。

山田氏：なるほど。学校でされたのですね。

森田氏：そうです。

山田氏：学校との連携というか、校長先生とかが変わったらやりにくい面があったりするじゃないですか。豊仁小学校はどうですか?

岩岸氏：そのへんは私とこの人の関係でなんとか(笑)。

森田氏：子どもたちのためにということであれば学校も協力してくれました。

山田氏：そうですね。それはすごいネットワークですね。この緑の箱にみんなの手紙を入れたのですか。

森田氏：小学生だけではなくて、地域の方は誰でもOKにしました。

山田氏：何人ぐらい集められたのですか?

森田氏：600人ぐらいですかね。さきほどの話にちょっと戻りますが、地域の代表は自営業の方でないと難しいと思いますが、メンバーとして、結構いろんな技術とか、アイデアを持っている人が地域にいて、色々な方に携わっていただけたほうが良いことができます。

山田氏：ちなみに今回はこんな人が来てくれたという人がおられたのですか。



森田氏：例えば、プレートを作るときに、印刷会社の方が御影石にレーザーで文字を掘れるというアドバイスをいただいたり、タイムカプセルを埋める時に腐らないようにする助言をもらったりしました。

山田氏：すごいですね。地域にはいろんな方がいらっしゃるから、関わってもらうとすごい勉強になるシーンが私にもいっぱいあります。これは2021年8月に淀川で行われた豊仁花火大会の写真ですね。

森田氏：淀川河川敷を封鎖しました(笑)。

山田氏：なぜそんなことができるのですか。

森田氏：この頃の青少年指導委員がやっているのですが、頭に思い浮かんだことをなんとかしてやってやろうと思うのです(笑)。それでできる方法はないかという感じで、消防署と、淀川河川事務所に掛け合いました。

山田氏：これもコロナ禍で子どもたちに喜んでもらおうと？

岩岸氏：子どもたちに何か思い出ができないかと相談を受けました。

森田氏：裏話的に言うと、その前の年に花火が全部中止になったので余っていたらしいです。それで自分たちの考えを花火師さんに理解していただいて。

山田氏：それも地域の方ですか？

森田氏：地域の方の紹介です。

山田氏：さてこのみかん狩りの遠足は森田さんがどうしてもしたかったことなのですか？

森田氏：昨年は何もかも中止になっていったのですが、私たち地域団体は、ルールの範囲内でなんとかできるだろうということで実行しました。

岩岸氏：止めないのです。

森田氏：バス3台で行ったのですが、旅行会社の方も久々にバスを出したと言っていました。

山田氏：なるほど。次の写真は何でしょうか。

岩岸氏：これは池田の小学生の事件がありましたでしょ。それから始まった事業なのです。

森田氏：新豊崎中学校、豊仁小学校、豊崎東小学校のPTAが持ち回りでやっていた“攻犯パレード”という、犯罪に立ち向かっていこうということで、シュプレヒコールをあげて警察の音楽隊と一緒に、中学校、小学校をぐるぐる回るパレードなのです。そういうパレードをしていたのですが、PTAもなかなか負担が大きいのでやむなく消えてしまったという過去があります。でも素晴らしいイベントだったと思ってきていた中学生の生徒会の役員たちがどうしても復活させたいということで、生徒会の役員主導で復活したのです。

山田氏：一回辞めたのにまた復活するというのはすごい労力がかかると思います。

岩岸氏：今年復活したのですが、校長先生も転勤で変わってはじめて、警察の署長もはじめて、北区長もはじめて、みんなはじめてだったので。知っているのは私と豊崎東の会長くらいでした。警察の署長がこんなことをしているところは私の記憶ではありませんと言ってびっくりしていました。

山田氏：“わいわいサンデー”というバーベキューは淀川の河川敷ですよ。豊仁地域では公園の他に河川敷が使えるから、遊べる範囲が広いですね。次のこちらが夏祭りですか？

岩岸氏：そうですね。ここ当分してないですね。今年もやる予定だったのですが、多数決で中止になりました。

山田氏：北区では盆踊りが盛んですよね。

森田氏：女性会の方がたちがグループを組んで、各地の盆踊りを回ります。

山田氏：大人の方が子ども押しつけてまで踊るような雰囲気はすごいなと思います。あと卒業遠足ですか。これはコロナ禍で実施されたのでしょうか。

森田氏：イベントがことごとくなくなった世代が小学校6年生の時と中学3年の時に、せめて何か思い出を残したいということでいつもより気

張って開催しました。

山田氏：さきほど岩岸会長のほうから子どもたちの目がキラキラしているというのが地域活動の支えになるというお話がありましたが、元気をもらう感じですね。

岩岸氏：そうですね。ボランティアというのは、そういう意味では自分を元気にする要素かもしれないですね。いかに楽しく喜ばすか。喜んでいる顔を見てこちらも喜び。だから、連合会長をしていますが、他の連合会長とも私は仲良くしていただいていると思っています。連合の会議でも楽しく、時に厳しいこともありますけれども、それはやはり地域をどうしようかというもとの意見であり、いろいろな問題も出てくるわけですけれども、それを我々が考えてまとめないといけないですし。そういうところで仲良くやっていると思っていますけれども(笑)。

山田氏：たぶんみなさんに愛されていると思います。森田さんは、これから地域のことをやっていかれる方も何かのキッカケで始められると思いますが、モチベーションをどこに持っていきのかといった点でアドバイスがあれば教えていただきたいです。

森田氏：ボランティアでできることは多岐にわたると思います。皆さん社会人としてすごい能力がありますし、本当に尊敬できる人ばかりなので、無理にする必要はないと思いますけれども興味を持つものがあれば、気兼ねなく単発でも、冷やかしてもいいので、来ていただければと思います。そういう思いを共有できる人たちというのは利害関係なしに、ずっと仲良くなれたりするので、ぜひ軽い気持ちでノックしていただけたらと思います。

山田氏：今回は青少年の活動にフォーカスしましたが、三本松さん、いかがでしょうか。

三本松：抛り所になっているのが学校というところがあると思いますが、学校以外に抛り所をどのように作られておられますか。

岩岸氏：コロナ禍で地域のお年寄りには「今は出るな」と言われていますけれども、出ないとうつ病とかの病気になるのです。だから私はコロナ禍でもバス旅行に連れて行ったりしています。そうすると、始めて参加するという人も来られます。広場を借りてグランドゴルフをすると、よその地域からも来られています。運動する、人に会う、喋る。これがないと年配はダメです。人に会うことによって頭を使いますし、おしゃべりもしますし、歩くし、太陽にあたるし。

三本松：ステイクホルダーとしては、民間企業などが地域活動協議会に入って活動できるということになってはいますが、豊仁地域では企業や寺社の積極的な関わりはありますか。

森田氏：地域にある玉泉院が、ポップコーンとか綿菓子の機械を持っておられます。青少年のイベントのときにそういう機材と人材を無償で提供していただいたり、それからクリスマス会のときに、地域にあるりくろーおじさんが特別にケーキを作っていたりというふうに、地域に対する企業の協力があります。そういうことをしたいと思われている方ももっといるでしょうし、そういう交流とかキッカケを増やしていくという試みはとても大事だと思っています。

岩岸氏：豊仁地域は都会の田舎ですね。

三本松：北と東とに川があって、北区でいちばん自然が感じられるところが豊仁地域の特徴かなと思います。

岩岸氏：淀川では2025年の万博へ向けて京都から大阪湾へ船で行けるようにする工事が始まっています。

三本松：今日は貴重なお話を聞かせていただいてありがとうございました。

山田氏：ありがとうございました。

